

2026年1月23日



2026年3月期 第3四半期 決算説明資料

東京製鐵株式会社
(東証プライム：5423)

1

2026年3月期 第3四半期 決算報告

2

2026年3月期 業績予想

3

株主還元について

4

参考情報

2026年3月期 第3四半期 (9か月累計)

- ・売上高：2,018億円、営業利益：82億円
- ・製品出荷数量：206万t（うち国内 176万t 輸出 29万t）
- ・製品出荷数量、販売単価、スクラップ単価などはほぼ想定通りに推移
- ・生産数量の増加に伴う固定費負担の軽減により、期間利益は計画を上回り着地

2026年3月期 通期予想

- ・中国経済の低迷による海外鋼材市況の不透明感の継続
- ・国内市場においても、人手不足や建設コストの上昇に伴う工期遅延、計画見直しが相次ぐ
- ・想定以上の厳しい経営環境が続く見込み

⇒ 通期の営業利益予想を 82億円 に見直し（10/17公表は95億円）
配当金は当初予想を据え置き

1

2026年3月期 第3四半期 決算報告

- ・前3Qに比べ、営業利益が 65.2%減少 (235億円

⇒

82億円 (累計)

・計画3Qに比べ、営業利益が 4.8%増加 (78億円

⇒

82億円 (累計)

〈要因〉

- ・製品出荷数量、販売単価、スクラップ単価などはほぼ想定通りに推移
- ・生産数量の増加に伴う固定費負担の軽減により、期間利益は計画を上回り着地

単位:億円

	2025年3月期				2026年3月期					
	1Q	2Q	3Q	1Q-3Q 累計	1Q	2Q	3Q	1Q-3Q 累計	通期計画 (10/17公表)	進捗率
売上高	939	803	804	2,547	738	600	679	2,018	2,643	76%
営業利益	96	42	95	235	47	12	21	82	95	86%
経常利益	102	46	99	248	53	16	25	95	105	91%
当期純利益	65	32	70	168	37	8	48	93	100	94%

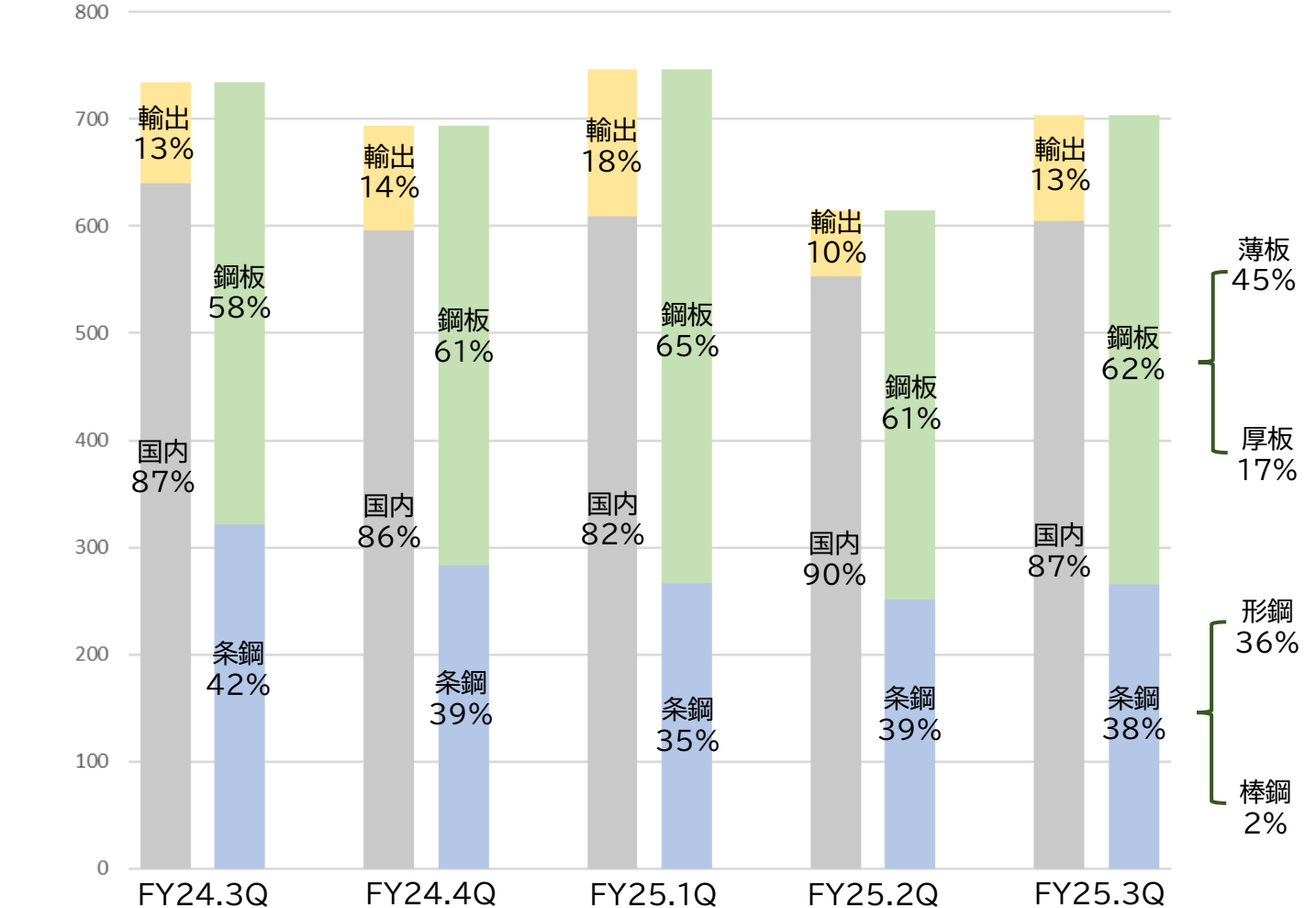
製品出荷数量の推移

P5

製品出荷数量（国内・輸出）および 粗鋼生産量・鋼材生産高の推移

	FY24.3Q	FY24.4Q	FY25.1Q	FY25.2Q	FY25.3Q
国内(千トン)	640	596	609	553	605
販売単価(千円)	107.8	102.1	99.4	95.8	93.8
輸出(千トン)	95	98	137	62	99
販売単価(千円)	92.7	88.7	81.9	88.7	89.4
合計(千トン)	735	694	746	615	705
販売単価(千円)	105.8	100.2	96.2	95.1	93.2
粗鋼生産量(千トン)	762	759	851	653	809
鋼材生産高(千トン)	708	691	774	596	755

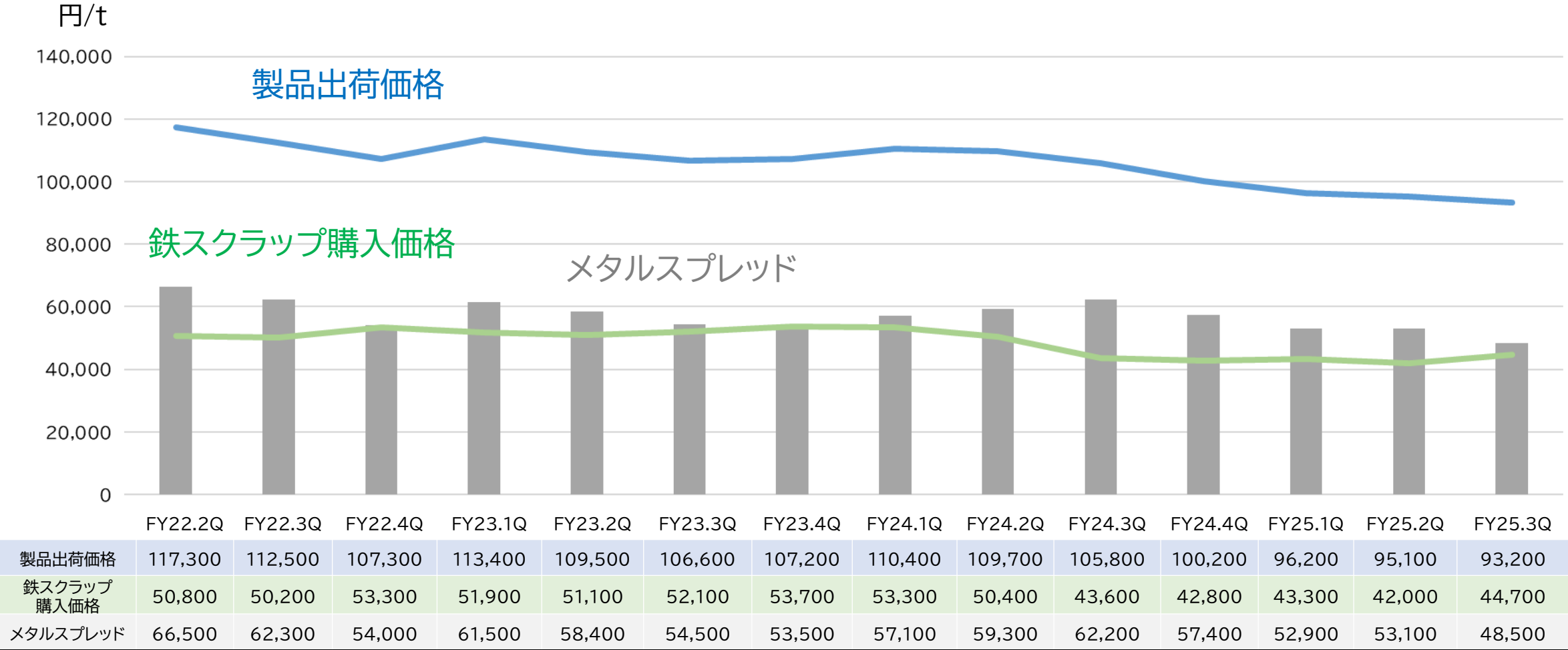
製品の国内・輸出比率 および 品種構成



製品出荷価格・鉄スクラップ購入価格・メタルスプレッドの推移

P 6

当3Qは、製品出荷価格は当2Q比で **約1,900円/t 下落**し、鉄スクラップ購入価格は **約2,700円/t 上昇**した。
結果として、メタルスプレッドは **約4,600円/t 縮小**した。

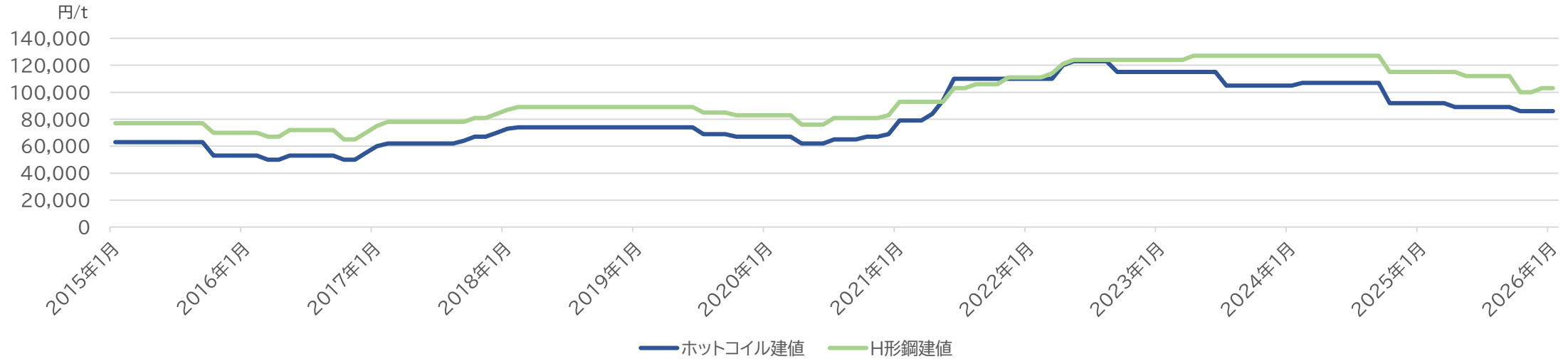


※鉄スクラップ購入価格とは、該当の四半期において使用した鉄スクラップの平均購入単価を指します。

製品（ホットコイル・H形鋼）・鉄スクラップ[°]（田原・陸上特級）当社建値推移

P7

ホットコイル・H形鋼 当社建値推移



鉄スクラップ[°] 当社建値（田原・陸上特級）推移

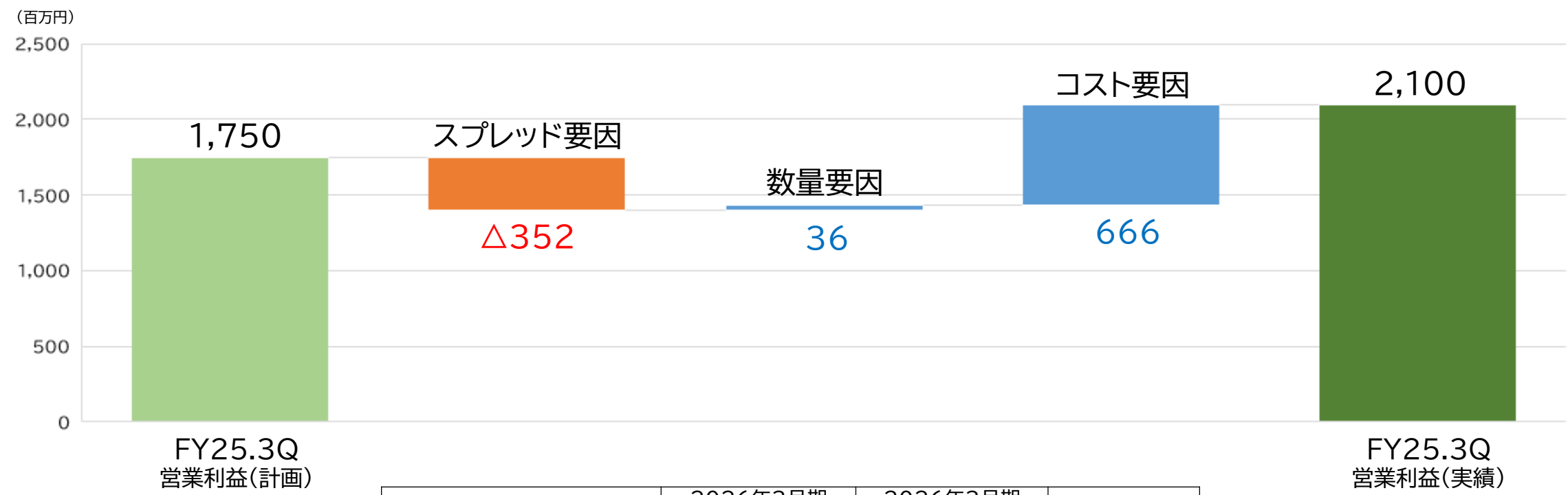


2026年3月期 3Q計画

⇒

2026年3月期 3Q実績 (10-12)

※営業利益は数値を丸めています



	2026年3月期 3Q計画	2026年3月期 3Q実績	比較
数量(t)	690,500	705,000	14,500
売上単価(円/t)	93,000	93,200	200
スクラップ単価(円/t)	44,000	44,700	700
スプレッド(円/t)	49,000	48,500	△500
営業利益(百万円)	1,750	2,100	350

2025年3月期 3Q実績 ➡ 2026年3月期 3Q実績 (4-12)

※営業利益は数値を丸めています

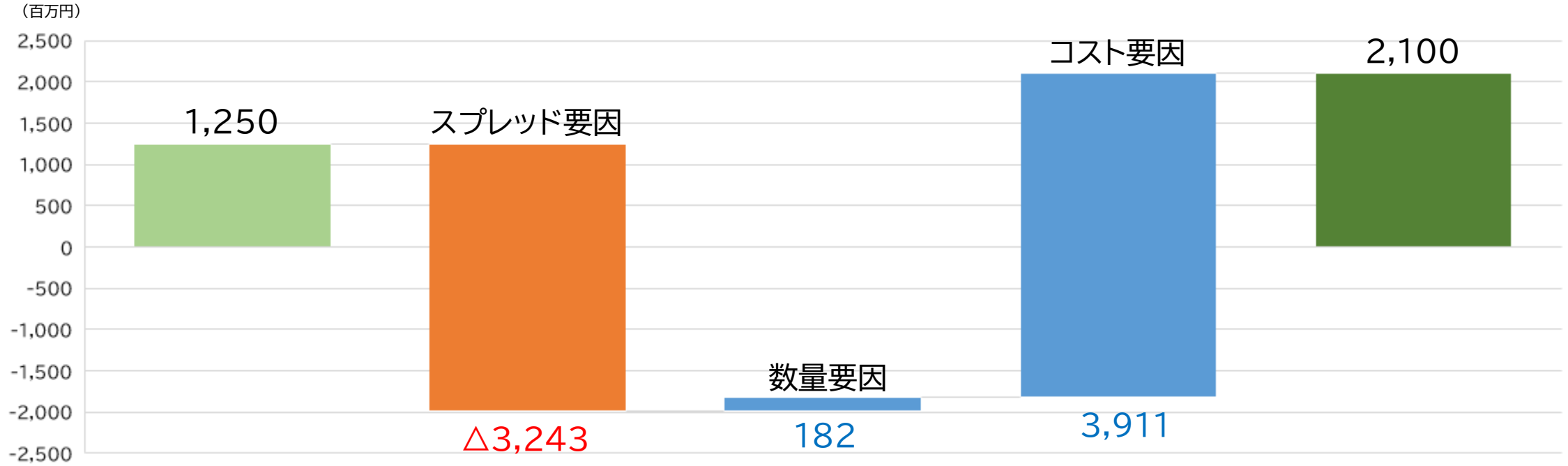


	2025年3月期 3Q実績(4-12)	2026年3月期 3Q実績(4-12)	比較
数量(t)	2,253,000	2,066,000	△187,000
売上単価(円/t)	108,700	94,800	△13,900
スクラップ単価(円/t)	49,300	43,400	△5,900
スプレッド(円/t)	59,400	51,400	△8,000
営業利益(百万円)	23,500	8,200	△15,300

営業利益増減要因

P 10

2026年3月期 2Q実績 ⇨ 2026年3月期 3Q実績 ※営業利益は数値を丸めています



FY25.2Q
営業利益(実績)

FY25.3Q
営業利益(実績)

	2026年3月期 2Q実績	2026年3月期 3Q実績	比較
数量(t)	615,000	705,000	90,000
売上単価(円/t)	95,100	93,200	△1,900
スクラップ単価(円/t)	42,000	44,700	2,700
スプレッド(円/t)	53,100	48,500	△4,600
営業利益(百万円)	1,250	2,100	850

2

2026年3月期 業績予想

〈外部環境〉

- ・中国経済の低迷による海外鋼材市況の不透明感の継続
- ・国内市場においても、人手不足や建設コストの上昇に伴う工期遅延、計画見直しが相次ぐ
- ・想定以上の厳しい経営環境が続く見込み

⇒ 採算重視の方針を徹底し、販売価格の適正化に注力、コスト低減活動を継続
10月17日公表の通期業績予想を見直し

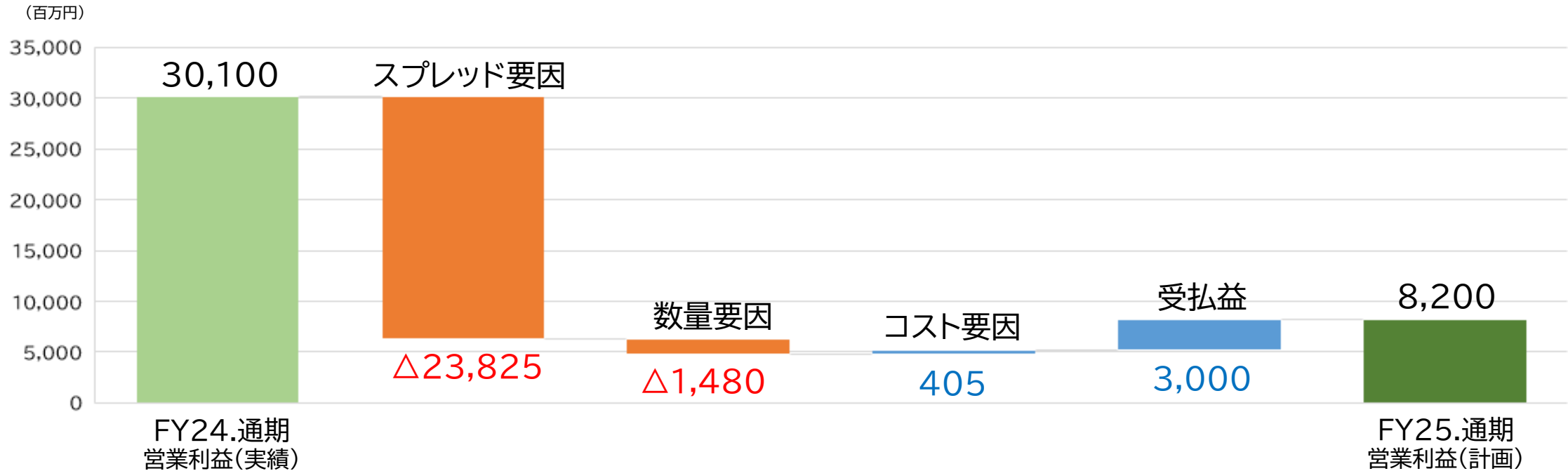
単位:億円

	2025年3月期 実績			2026年3月期予想 (10/17 見直)			2026年3月期予想 (1/23 見直)		
	上期	下期	通期	上期(実績)	下期	通期	上期(実績)	下期	通期
売上高	1,742	1,525	3,267	1,338	1,304	2,643	1,338	1,383	2,722
営業利益	139	161	301	60	35	95	60	21	82
経常利益	148	167	316	69	35	105	69	28	98
当期純利益	98	113	212	45	54	100	45	42	88

営業利益増減要因

P 13

2025年3月期 通期実績 ⇨ 2026年3月期 通期計画 ※営業利益は数値を丸めています

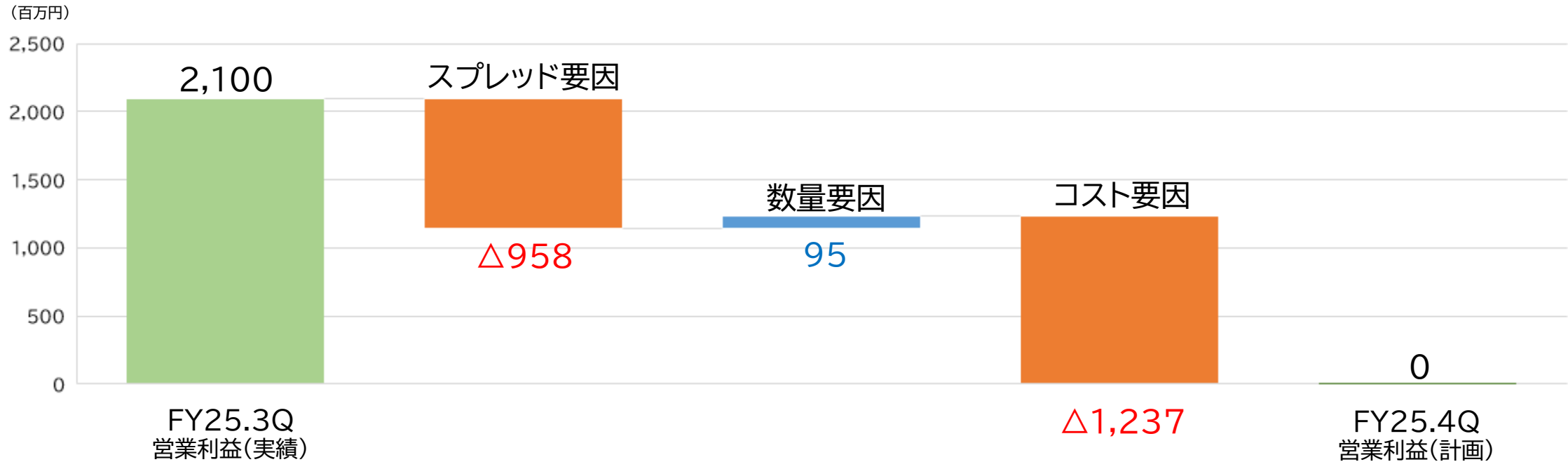


	2025年3月期 通期実績	2026年3月期 通期計画	比較
数量(t)	2,948,000	2,803,000	△145,000
売上単価(円/t)	106,700	94,400	△12,300
スクラップ単価(円/t)	47,800	44,000	△3,800
スプレッド(円/t)	58,900	50,400	△8,500
営業利益(百万円)	30,100	8,200	△21,900

営業利益増減要因

P 14

2026年3月期 3Q実績 ⇨ 2026年3月期 4Q計画 ※営業利益は数値を丸めています



	2026年3月期 3Q実績	2026年3月期 4Q計画	比較
数量(t)	705,000	737,000	32,000
売上単価(円/t)	93,200	93,000	△200
スクラップ単価(円/t)	44,700	45,800	1,100
スプレッド(円/t)	48,500	47,200	△1,300
営業利益(百万円)	2,100	0	△2,100

3

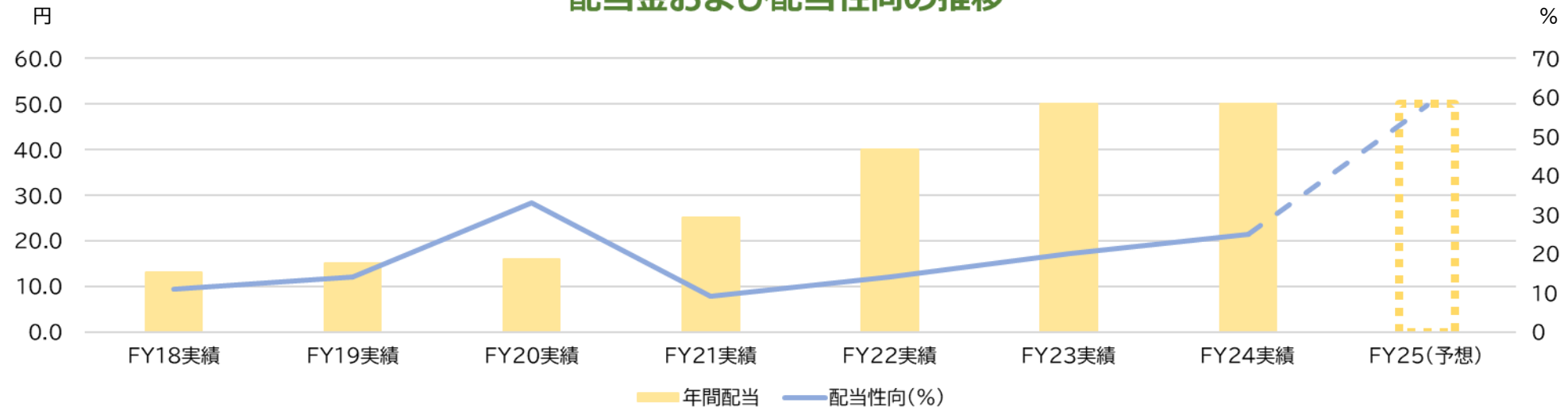
株主還元について

株主還元について

P 16

年度	FY18実績	FY19実績	FY20実績	FY21実績	FY22実績	FY23実績	FY24実績	FY25(予想)
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
中間配当	6.0	7.0	8.0	10.0	20.0	25.0	25.0	25.0
期末配当	7.0	8.0	8.0	15.0	20.0	25.0	25.0	25.0
年間配当	13.0	15.0	16.0	25.0	40.0	50.0	50.0	50.0
自己株式買取総額 (百万円)	3,877	11,778	1,999	5,710	3,499	3,731	9,999	-
配当性向(%)	11	14	33	9	14	20	25	58
総還元性向(%)	36	99	66	27	26	33	72	58

配当金および配当性向の推移



4

参考情報

トヨタ自動車が生産する複数車種に当社鋼材が採用

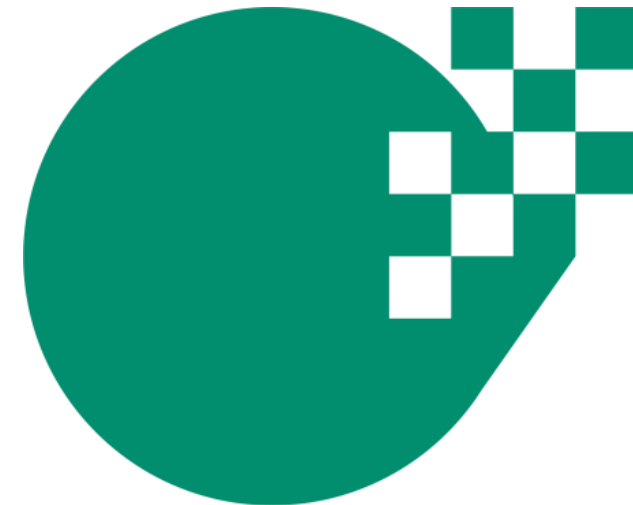
P 18

2025年11月11日発表

成分管理や品質安定性の点で電炉材の適用は難しいとされてきた自動車用鋼板において、トヨタ自動車が生産する複数車種に、鉄スクラップのみを原料としてアップサイクルした当社酸洗コイルの採用が決定



酸洗コイル



GREEN EV STEEL

グリーンEV鋼板事業推進室 ロゴ

電炉法の重要性を示す2つのレポートが公表

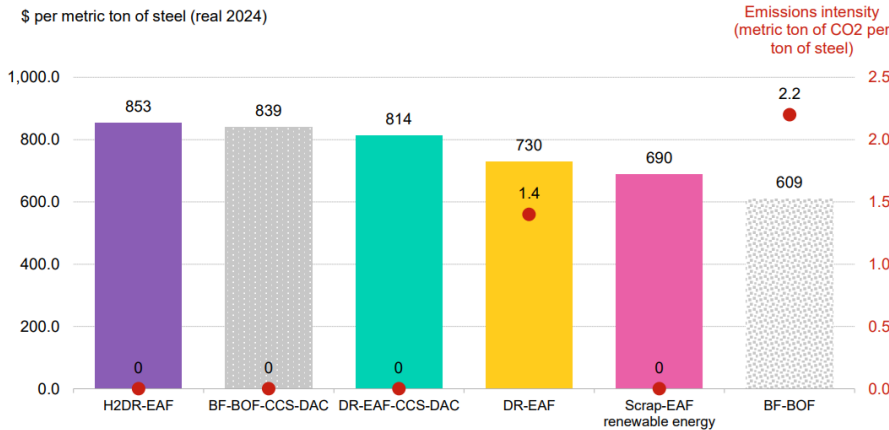
2025年12月2日公表

Bloomberg NEFより『日本の鉄鋼産業の脱炭素化：経済性と今後の道筋』が公表
スクラップベースのEAF（電気炉）の脱炭素化における経済優位性が示された

2025年12月25日発表

当社「鉄スクラップ研究チーム」による『2030年、鉄鋼資源循環の姿』を公表
循環鋼比率（Circular Steel Ratio CSR 国内発生鉄スクラップによって国内鉄鋼需要量をどれだけカバーできるかを示す指標）を提唱。2030年は CSR 67.2% と推定された

Figure 24: Japan's levelized cost of steel in 2050 by production pathway



Source: BloombergNEF. Note: BF-BOF-CCS-DAC and BF-BOF represent retrofits while others represent new builds. Hydrogen based on cracking blue ammonia from Saudi Arabia. Carbon capture and storage (CCS) based on pipeline and offshore storage. Benchmarked against blast furnace-basic oxygen furnace (BF-BOF) emissions. DAC is direct air capture. DRI is direct reduced iron. DAC is direct air capture.

『Decarbonization of Japan's Steel Industry: Economics and Path Forward』
(BloomBerg NEF)

『2030年、鉄鋼資源の姿』
(東京製鐵 鉄スクラップ研究チーム)

$$\text{循環鋼比率 CSR(\%)} = \frac{(P_{\text{国産}} \cdot S_{\text{国産}} \cdot C_{\text{国産}}) + (P_{\text{国産}} \cdot S_{\text{国産}} \cdot C_{\text{国産}}) + (P_{\text{国産}} \cdot S_{\text{国産}} \cdot C_{\text{国産}}) + (P_{\text{国産}} \cdot S_{\text{国産}} \cdot C_{\text{国産}})}{\text{鉄鋼内需要 } D}$$

によって求められる。

なお、p は Production、s は scrap、c は circulation、D は demand の頭文字である。
計算の結果、2030 年度の循環鋼比率は 67.2%と算定された。

単位:トン	
国産スクラップによって生産される国内向け鉄鋼製品量 ($P = \sum p \cdot s \cdot c$)	36,200,908
鉄鋼内需要(D)	53,851,555
循環鋼比率(P/D) CSR: Circular Steel Ratio	67.2%

表11. 循環鋼比率(CSR) (2030年度)

非化石電力を活用したホットコイルのEPD取得

P 20

2025年12月25日発表

- ・UL社より非化石電力を活用したホットコイルの環境製品宣言（EPD）を取得（日本鉄鋼業界初）
- ・低CO₂鋼材の環境情報をEPDという形でも提供し、国内外の幅広いニーズにお応えしていく

通常製品 EPD

ENVIRONMENTAL PRODUCT DECLARATION
HOT ROLLED COIL / CHECKERED COIL
STRUCTURAL STEEL



認証取得日：2024年12月12日

非化石電力鋼材 EPD

ENVIRONMENTAL PRODUCT DECLARATION
HOBZERO (ULTRA-LOW CO₂ EMISSIONS) HOT ROLLED COIL / CHECKERED COIL
STRUCTURAL STEEL



認証取得日：2025年12月22日

通常製品に加えて
非化石電力鋼材の
EPD を取得



本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料でなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではなく、本資料に記載された将来の予測等は、説明会の時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、不確定要素を含みます。したがって、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願いいたします。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。